

## 組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 国際センター

	組織目標	達成状況(成果)
教 育	1. 学生に対する国際理解教育を推進する。	「国際舞台に誘う学問入門」「国際貢献論」「国際協力入門」「ODAを考える」 「留学生支援ボランティア実習1.2」を開講し、学生の国際理解を促した。 また、3月には学生のベトナムフィールド研修を実施し、学生の海外体験として協定校での学生交流や国際協力や国際開発機関の現場を学ぶ機会を提供した。
		達成度： 4 ③ 2 1
研 究	なし	
		達成度： 4 3 2 1
セ ン タ ー 業 務	1. 本学の国際交流・国際貢献に関する国際化方針の実現を目指す。 ・国際戦略会議において作成した岡山大の国際化の方針に基づき、行動計画を具体化する。 2. 本学の国際交流プログラムを推進する。 ・ベトナム事務所、中国事務所の機能・役目のさらなる強化を検討する。それらの海外拠点において、岡山大の魅力を発信、現地の情報収集を行うとともに、学生募集、面接等の業務実施を可能とすべく手段を講じる。 3. 本学学生の海外派遣の拡大及び外国人留学生の支援を充実させる。 ・卒業、修了した留学生の現状把握に努め、日本国内に在留する留学生の組織化、帰国留学生の地域別同窓会の立ち上げについて調査検討する。 ・留学生に対する日本国内での就職支援の充実のために、キャリア支援室と連携を強化する。 ・短期留学プログラムの受入・派遣について規程等を見直し、全学的な体制を整備を図る。	1. 「岡山大の国際化の方針案」の具体化について、早期に取り組むべき事項を「岡山大の国際化に向けた方向性と当面の取り組み(案)」としてまとめた。そのうち、留学生の受入の促進策として、ベトナムでの留学フェア、海外の学生向けに英文パンフレットの作成、日本人学生の海外派遣充実のためゲーム語学研修、ベトナムフィールド研修の新規実施、また、キャンパスの国際化の推進として、学内公文書の英文化及び国際化に対応する職員研修の充実策としてTOEIC-IPテストの導入を行った。 また、センターの改組に伴い、職員会議等で企画立案実施において連絡を密にし、教職協働体制を構築した。 2. 国際センターでは、11月にベトナム事務所を訪問し、現地調査を行い、事務所の機能や役目を強化する方策について検討した。その検討をもとに、3月にハノイで大学独自の留学フェアを開催し、現地の学生21名の参加を得て、大学説明や卒業生の体験説明などにより留学生の獲得に向けた取組を行った。 さらに、8月末からダラット大学に教授を派遣し、これまでの日本語教育の充実支援だけでなく、来年度に向けて現地教員に対する教授法の指導を計画している。 優秀な留学生確保の観点から、新たに、中国の学位・学歴認証システムを導入し、受け入れる留学生の学歴等を確認し、質を保証するための制度を整えた。また、中国からの政府派遣留学生の獲得に向けて学内規定の整備及び学部・研究科への周知等を行った結果、中国公派研究生2名の受入れを決定した。 3. 卒業した留学生の現状把握に努めるため、10月に平成17年度以降に卒業・修了した留学生のデータをもとに既卒留学生名簿を作成し、12月に卒業生向けにニュースレターを発信して卒業生とのコンタクトを試みた。今後定期的なレターを発信することとしている。 在日同窓会組織の立ち上げについては、中核となる人物について調査候補者を選定した。出身地域別同窓会については、在ベトナム同窓会の世話人をフェデラティブ特別コースの修了者の中から選定した。 留学生の就職支援については、7月に改組、充実されたキャリア開発センターが担当することとなったが、関連情報を提供・共有するなど、連携して就職活動のサポートを行った。 EPOKについて全学的な体制を構築するため、9月に短期留学プログラム専門委員会を立ち上げ、EPOKの派遣及び受入れプログラムの充実に向けた検討を行っている。また、日本人学生の海外留学促進に向けて、説明会を年間2回増やして行うとともに、相談デスクを設け授業期間中週2回相談に応じられる体制を整備した。 また、来年度の派遣候補者の増加に伴い、既に大学間協定のあるタイの2校に派遣すること、新たに米国の大学を1校締結することを決めた。 さらに、海外派遣の拡大策として、国際交流基金を見直し、派遣学生への渡日一時金の支給額及び人数を増やすこととした。
		達成度： ④ 3 2 1
社 会 貢 献	1. 国際交流・国際貢献に関するシンポジウム等を地域に公開して開催することにより、大学内だけに限らず地域社会と連携して広く国際理解の推進を図る。	1. 12月に外務省の外交講座を実施するにあたり、広く地域に公開して開催し、74名の参加を得た。また、本学で初めてJICAの団体研修でガーナから研修員12名を受け入れ、研修プログラムにおいて附属学校での授業実習をとおし地域の子も達と交流し、国際理解の機会となった。 2. 5月浅口市国際交流協会総会において国際理解講演を行った。 3. 12月岡山県国際交流協会主催の「おかやま国際シンポジウムⅡ」に参加協力した。 4. 留学生と地域住民との交流を行うため、小学校及び高校訪問、週末型ホームステイ及びNGO会員との交流会を企画実施した。
		達成度： 4 ③ 2 1
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。		

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせ設定した領域・指標により修正してください。